

大阪府立千里高等学校 SGH事業の取組と成果・課題

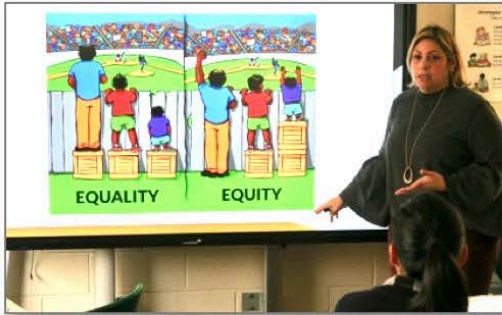
合同連絡協議会

2019.6.28.

本日の報告内容

1. 概要：学校・SGH研究開発
2. 連携：校内のヨコ・タテ、校外諸機関
3. 課題研究を深めるための工夫：『探究基礎』
4. 成果と課題





1. 概要 | 学校の概要

1967年 普通科高校として創立

1990年 国際教養科2学級を併置

2005年 国際科学高校に再編（国際文化科・総合科学科）

→課題研究の科目を設置

＜探究基礎・探究＞

＜科学探究基礎・科学探究＞

2015年 SGH指定

2017年 SSH指定（2期目）



1. 概要 | 本校SGH研究開発の概要①

- **目的** 「国際的な課題について、
ステークホルダーがWin-Winの関係となるような
提案を行う力を備えたリーダーを育成するための
教育課程の研究開発」
- **目標**
 1. 高い**社会貢献意識**
 2. 国際的課題についての**多面的な視点**と深い理解
 3. 国際的課題について**他者と連携・協調しつつ探究**する力
 4. ステークホルダーがWin-Winの関係となるよう柔軟かつ創造的な
提案を行う力
 5. 高いレベルのコミュニケーション・ツールとしての**英語力**

→アンケートで各学年12月に計測

1. 概要 | 本校SGH研究開発の概要②

- **方法**
 1. 課題研究の**研究領域**を国連グローバル・コンパクトの4分野(労働・環境・人権・腐敗防止)に。企業とN G Oの取組の比較 + 国際比較という手法 → ■ 多面的な視点を育む
 2. 大学・企業・N G Oと連携し、フィールドワーク等を通じ、**研究者・実践家の生き方に直接触れる** → ■ 高い社会貢献意識とG Cに係る深い理解を育む + 高いレベルのコミュニケーション力としての英語力を向上
 3. 研究：生徒が**互いに協力**しながら**連携機関より指導・支援**を受ける → ■ 必要な情報を収集・分析・整理する力を身につけることができる

1. 概要 | 本校SGH研究開発の概要③ プログラム

3年

英語専門科目『トピック・スタディズ』

・通年2コマ/週 ・英語科の教員 ・SGDsと国連機関の役割を学ぶ。

▶ 対象は1,2年は国際文化科4クラス全員、
3年は『トピック・スタディズ』選択者。

▶ 点線で囲ったものは希望者対象の研修

2年

総学『探究』+『社会と情報』

・通年2コマ連続/週
・[2クラス6展開]×2
・国・社・英・情報の教員

企業訪問研修

・企業の実践を調査
・担当分掌

大阪大学研究 合宿(派遣)

・国際課題に関する
研究の訓練

海外FW研修

・多様性への対応につ
いて米国の移民の歴
史・先進実践例を学ぶ
・担当分掌

1年

総学『探究基礎』

・後期2コマ連続/週
・1クラス2展開
・国・社・英の教員

専門科目『国際理解』

・通年1コマ/週
・社会科の教員

講演会

・国際課題の研
究を大学院生が
紹介
・1年担任

GlocalFW研修

・地元・企業の実践
・担当分掌

2. 連携 | 校内のタテ・ヨコ

国際課題の理解と解決

3年

英語専門科目『トピック・スタディズ』

・通年2コマ/週 ・英語科の教員 ・SGDsと国連機関の役割を学ぶ。

多様性の理解と
包摂への姿勢

2年

総学『探究』+『社会と情報』

・通年2コマ連続/週
・[2クラス6展開]×2
・国・社・英・情報の教員

企業訪問研修

・企業の実践を調査
・担当分掌

校外研究合宿

・国際課題に関する
研究の訓練

海外FW研修

・多様性への対応につ
いて米国の移民の歴
史・先進実践例を学ぶ
・担当分掌

1年

総学『探究基礎』

・後期2コマ連続/週
・1クラス2展開
・国・社・英の教員

専門科目『国際理解』

・通年1コマ/週
・社会科の教員

講演会

・国際課題の研
究を大学院生が
紹介
・1年担任

GlocalFW研修

・地元・企業の実践
・担当分掌

2. 連携 | 校内のタテ・ヨコ

3年

英語専門科目『トピック・スタディズ』

・通年2コマ/週 ・英語科の教員 ・SGDsと国連機関の役割を学ぶ。

2年

総学『探究』+『社会と情報』

・通年2コマ連続/週
 ・[2クラス6展開]×2
 ・国・社・英・情報の教員

企業訪問研修

・企業の実践を調査
 ・担当分掌

校外研究合宿

・国際課題に関する
 研究の訓練

海外FW研修

・多様性への対応につ
 いて米国の移民の歴
 史・先進実践例を学ぶ
 ・担当分掌

1年

総学『探究基礎』

・後期2コマ連続/週
 ・1クラス2展開
 ・国・社・英の教員

専門科目『国際理解』

・通年1コマ/週
 ・社会科の教員

講演会

・国際課題の研
 究を大学院生が
 紹介
 ・1年担任

GlocalFW研修

・地元・企業の実践
 ・担当分掌

英語専門科目

『グローバル・コミュニケーション』

- ・各学年通年2コマ/週
- ・1クラス2展開
- ・NETとのチームティーチング

3年：プロジェクトプラン

2年：ディベート

1年：スピーチ

英語専門科目

『プレゼンテーション・スキルズ』

- ・2年通年1コマ/週

教科内容マトリックス

[いつごろどの科目で何を教えているかを一覧表にまとめて可視化]

2. 連携 | 校外諸機関との連携

3年 英語専門科目『トピック・スタディズ』
・通年2コマ/週 ・英語科の教員 ・SGDsと国連機関の役割を学ぶ。

2年 総学『探究』+『社会と情報』
・通年2コマ連続/週
・[2クラス6展開]×2
・国・社・英・情報の教員
+GCNJ加盟企業・大学教員・院生

企業訪問研修
・企業の実践を調査
・担当分掌
+連携企業

校外研究合宿
・国際課題に関する研究の訓練
・大阪大学大学院
国際公共政策研究科

海外FW研修
・多様性への対応について米国の移民の歴史・先進実践例を学ぶ
・担当分掌
+海外NGO/実践者

1年 総学『探究基礎』
・後期2コマ連続/週
・1クラス2展開
・国・社・英の教員

専門科目『国際理解』
・通年1コマ/週
・社会科の教員 + NGO

講演会
・国際課題の研究を大学院生が紹介
・1年担任
+連携大学

GlocalFW研修
・地元・企業の実践
・担当分掌
+NGO・連携校
・連携企業

2. 連携 | 校外諸機関との連携

総学『探究』+『社会と情報』

- ・中間発表会・年度末発表会において**大学教員と企業CSR部門の方から助言**
- ・研究の中盤・後半に**大学院生から個別論文指導**

海外FW研修

- ・人権NGO **Anti-Defamation League** による**多様性対応トレーニング**
- ・**実践家**による学校・地域・企業における多様性推進の**先進例の視察・取材**

企業訪問研修

- ・研究テーマに関する**取組を行っている企業**を訪問し、**取材**

GlocalFW研修

- ・とよなか**国際交流協会**（大阪・豊中市）で**在日・来日外国人の生活とサポート**について学ぶ
- ・**コリア国際学園**で、**設立趣旨**を学び、生徒と**社会活動**について交流
- ・**モスク**（大阪・茨木市）を訪問し**教えと活動**について学ぶ
- ・**アジア太平洋人権情報センター**により**国際人権とグローバルリーダーの資質**について学ぶ

専門科目『国際理解』

- ・**公害地域再生センター** 研究員から**利害対立を乗り越えた実例**として**公害問題の実際**を学ぶ

3. 課題研究を深めるための工夫：『探究基礎』

- 趣旨
 - ・2年次の課題研究の基礎作り
 - ・個人の活動とグループでの活動をバランスよく配置して演習を行う。
 - 【調べる－意見を共有する－まとめる－発表する】
 - 【聞き取る－質問する－多角的に検討する－着地点を考える】

- 教材 「探究基礎通信」

- ・誰が指導を担当しても進められるワークシート形式

Webで公開しています。

<http://www.osaka-c.ed.jp/senri/sgh/report.html>



■ 探究基礎通信 3 読解力を身につける ～ 文章の読み取り

課題解決のためには 頭の中で考えるだけではなく、「現場をじかに体験する」ということが有効です。しかしグローバルな問題に対し、現場に赴いて考えるというのはかなり困難です。またたとえ現場にいたにせよ、その事態を正しく判断するためには、しっかりとした予備知識が必要です。予備知識とは、その課題にまつわるデータや、自分より先にされた研究の成果を知ることです。

研究の成果を知るためには文章を正確に読み取るということが必要です。ヒューライツ大阪のガイドブック「人を大切に」を使って読み取りの練習をしましょう。



第1章「働く人の人権（P7）」を開きなさい。

問1 「1-1 職場で働く人の多様性」の文章の中で最も大切な部分を抜き出さなさい。またそこを抜き出した理由を説明しなさい。（重要箇所発見問題）

抜き出し

理由

問3 「1-2 人権をめぐるさまざまな問題 (2)「ジェンダー平等」に「女性に対する差別の問題は、実は男性の働き方の問題でもあります。」(第3段落)とあるが、どのような点で、女性の差別は女性だけでなく男性の問題であるといえるのか。あなたの考えを書きなさい。(考えをまとめる問題)

問4 「1-2 人権をめぐるさまざまな問題 (3)外国人労働者」に「日本の企業では外国籍の人が多く働いています。」とあるが、なぜ日本には外国籍の人も多く働いているのか。ここに書かれていること以外の情報を集めて次ページにまとめなさい。(発展的に考える問題)

(参考) 図録▽外国人労働者数の推移 www2ttcn.ne.jp より

問3 「1-2 人権をめぐるさまざまな問題 (2)「ジェンダー平等」に「女性に対する差別の問題は、実は男性の働き方の問題でもあります。」(第3段落)とあるが、どのような点で、女性の差別は女性だけでなく男性の問題であるといえるのか。あなたの考えを書きなさい。(考えをまとめる問題)

問4 「1-2 人権をめぐるさまざまな問題 (3)外国人労働者」に「日本の企業では外国籍の人が多く働いています。」とあるが、なぜ日本には外国籍の人も多く働いているのか。ここに書かれていること以外の情報を集めて次ページにまとめなさい。(発展的に考える問題)

(参考) 図録▽外国人労働者数の推移 www.2ttn.ne.jp より

こういう場面で
タブレットが活躍します。



2 メリットとデメリット

- ・調べて見つけたことには、はじめに○をつけ、自分で考えたことには、★をつける
- ・メリット・デメリットを証明するデータなども併せて書きましょう。

箇条書き

メリット

デメリット

■ 探究基礎通信 6のB 班に1枚 ディベート ～ 対戦に向けて2 班活動

取り組み2 グループシート1 メリット・デメリットを文章化し、それを証明するデータをまとめなさい。

テーマ _____ 肯定 ・ 否定

班員名 _____

メリット（肯定側）・デメリット（否定側） を文章化 1

データ

3. 課題研究を深めるための工夫：『探究基礎』

- 概要
 - ・学ぶ対象（グローバルな課題）
 - ・学び方（課題研究と調べ学習の違い）
 - ・文章・図表の読解
 - ・根拠に基づく実現可能な提案
 - ・課題設定→情報収集→仮説→根拠→提案
- 『探究』への接続
 - ・1月・2月にSDGsの17目標をベースに課題設定
 - ・課題設定→4人グループで課題の妥当性を相互検討
 - ・課題を練り直す→提出→似た課題で「探究」講座編成

4. 成果と課題 | 課題研究

1. テーマが社会課題に <教科から社会課題へ>

- ・研究の社会的な意義が明確に
- ・企業・NGOとの連携が可能に

2. 外部教育資源の導入 <社会に開かれた教育>

- ・指導に対するフィードバック→改善・発展のアイデアが広がる
- ・社会の現状について教員の認識が広がる
- ・生徒は指導教員以外の評価も受ける
→学術的・社会的な評価を付与できる

3. 共通の指導枠組が整備 <個人から共通へ>

- ・成功・失敗の共有
- ・評価基準の洗練

4. 校内・校外での発表の増加 <切磋琢磨の機会>

- ・発表に向けて教員も力を入れる→他の教員への波及効果
- ・優れた発表から刺激を受ける→生徒の意欲の向上

4. 成果と課題 | 学校全体の指導への影響

1. 「主体的対話的で深い学び」を導く授業スタイルの経験者が広がる

- ・課題研究指導から教科指導への波及期待
- ・課題研究以外の授業で研究授業

—8月, 2月の勉強会 + 12月に全教科参加で8クラス対象に

2. 教科間連携の試みが進展する

- ・課題研究と教科をつなぐ
- ・教科と教科をつなぐ

3. 学校外の組織・人との繋がりが形成される

- ・教育のための「資源」を広く見通せる

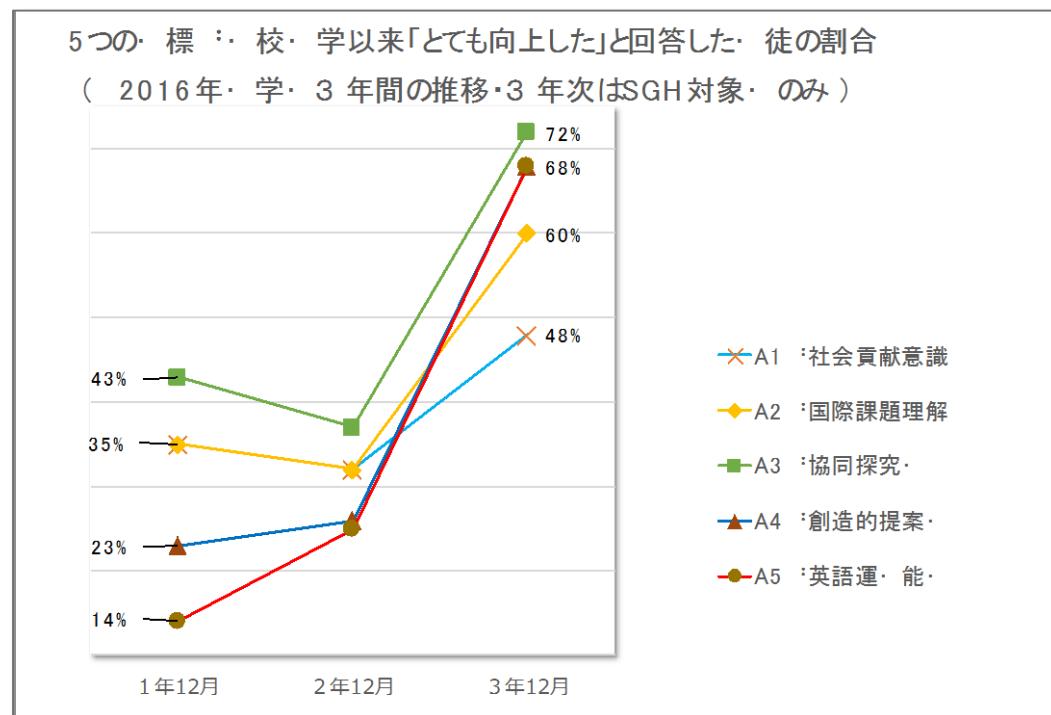
4. 成果と課題 | 事業評価

1. 課題研究ルーブリック + 事業評価指標の設定
2. 企画ごとの指標と記述を合わせた効果測定
3. 同じ生徒集団の3年間推移・卒業生追跡調査

- ・目標に基づいた教育デザイン
- ・伸ばせた力を教員が意識

5つの目標に対応する力や意識が
入学後「とても」向上したと答えた
生徒の割合 ▶

母数はSGH対象生徒



4. 成果と課題 | 成果の普及

1. 研修内容と生徒へのインパクトを詳細にWeb掲載
2. 教材・論文集・報告書をWebで公開
3. 学年末研究発表会で2年生全生徒の課題研究の口頭発表を一般公開
4. 教員対象SGH報告会にあわせて公開勉強会を開催

秋休み企業訪問研修2018生徒レポート_8. 日本電産

テーマ：紛争鉱物規制への協力を中心に



【参加生徒から】

事前に見ただけでは分からなかった、紛争鉱物のサプライチェーンに関しての取り組みの内容やCSRについてなどを知れてよかった。また、私のイメージではモーターとかそういう製品を作る会社では本当に作るだけ追求するって思っていたけど、今の社会の流れでは例えばサプライチェーンに何か問題があったら切り捨てるのではなく共に解決法を考えるというふうにしていくことが求められているということを知った。会社どうしの結び付きの強さを求められる世の中になっているとわかった。

今回の訪問ではサプライチェーンと女性の社会進出について様々な話を聞き様々なことを知ることができた。サプライチェーンの話では紛争鉱物を使わないということは世界の平和につながり私達ができる身近なことだとわかった。女性の社会進出の話では時差勤務や時間単位年休など様々な制度を取り入れるなどの工夫がされているとわかった。また、カムバック制度などの制度もあり、育休後の復職率も高かったことから働きやすい環境が整えられていることがわかった。

「サプライチェーン」とは製品が原材料の採掘から私たちの消費者が手にするまでの

2019.4.7. SGH甲子園 ポスタープレゼンテーション部門優秀賞を受賞した研究のポスター・発表原稿と体験記

2019年3月23日土曜日に 関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパスで「全国スーパーグローバルハイスクール 課題研究発表会 2019【SGH甲子園】」(主催 関西学院大学/大阪大学/大阪教育大学)が行われました。



「探究基礎」テキスト
2019(PDF)
Basic Project Research
Textbook 2019
2019年3月



SGH研究報告書2018(PDF)
SGH Report 2018
2019年3月



課題研究「探究」論文集
2018(PDF)
Project Research Tankyu
Best Essays 2018
2019年3月

4. 成果と課題 | 今後の課題

1. 資金

得られたつながりを資産に「協働」化。

生徒全員に関わるものは学年費として予算化。

2. 多忙の中でもフィードバック

「ボトムアップで評価と改良のアイデアを話し、作り上げる」機会・仕組みを作る。担当者会議の定例化 + SNSも有効？

3. 経験の文書化

「課題研究指導の押さえどころとタイミング」を整理、校内外で使える形にする。9人中5人が初めて担当する「ピンチ」をチャンスに！

4. 生徒の研究を現場につなぐ

「実地調査とアクション」で主体的に社会と繋がることをさらに推奨する。SDGsとProject-Based Learningを教員研修でも取り上げ済み。

5. 文理の交流・協働の進展

研究交流の機会増加。海外交流校との国際シンポジウム初実施。

補足 | 評価の方法

留意した点

- 中間評価での指摘（下記）を受け3年次より改善を図った。

「…しかし、課題研究や成果の検証方法が生徒アンケートに偏っており、アンケート結果はS G Hの成果か判断が難しいものもあるため、特に課題研究の取組や成果については、具体的な生徒の探究の姿での提示など今後は改善が必要である。」

改善点

- ① 生徒アンケートは、年度末のほか、可能な限り研修実施後すぐに選択式および記述式のアンケートを実施し、「数値」と「言葉」を組合せて評価するようにした。また、記述回答がどの評価項目と関連するかを表示するように努めた。
- ② 課題研究等の担当教員による評価を研究報告書に掲載することにした。
- ③ 生徒アンケートの質問項目をカテゴリーに分類して、短い名称<カテゴリー記号+番号+7文字までの名称>を付与し、認識、表示しやすくした。

補足 | 評価の方法

評価の全体像

○ 生徒による評価（アンケート）

- ・国際文化科：講演・研修等の直後（記述＋選択式）＋12月（選択式のみ・クロス集計にも利用）
- ・総合科学科：12月（選択式のみ・クロス集計にも利用）
- ・両学科とも：学校教育自己診断アンケートの結果（選択式のみ・経年変化を見るために利用）

昨年度より
卒業後2年目の
卒業生への
追跡調査を実施

○ 教員による評価

- ・講演会や研修等：担当者が研修ごとに評価。
- ・課題研究：①ルーブリックを授業初期に生徒に示し、時期に応じて項目を選択利用しながら評価および指導に利用。②中間期と終盤に指標を立てて数値＋コメントで評価→自己点検・次年度担当者への申し送りに利用。

○ 第三者による評価

- ・2年生の課題研究に対して、企業CSR担当者・国際問題に関わる大学教員・運営指導委員が年2回生徒の発表を見て評価および助言。
- ・2年生の全ての課題研究に対して個別に、大学院生が評価および助言。
- ・運営に対して、運営指導委員が年2回評価および助言。
- ・外部試験の結果も参考にする。

補足 | 評価の方法

アンケートで用いている質問項目 | カテゴリーと略称のリスト

(矢印の後の「 」が質問紙の記述。／◆は、項目名の略称。結果のグラフにはこの略称で表示。)

A. 本校が育成することをめざす「グローバルマネジメント力」の5目標

各目標について、「高校入学前と比べて自分は何のくらい向上したと思いますか？」

授業・研修等が、「各目標について、どのくらい貢献したと思いますか？」

A1 高い社会貢献意識

→「社会に貢献しようとする意識が高い。」◆A1 社会貢献意識

A2 国際的課題についての多面的な視点と深い理解

→「国際的課題（国をまたぐ問題・多くの国に共通する問題・国際的支援）について理解が進み、複数の視点から検討できる。」◆A2 国際課題理解

A3 国際的課題について他者と連携・協調しつつ探究する力

→「国際課題について、（先生やクラスメイト等に）助言を求めたり意見を交換したりしながら研究を進めることができる。」◆A3 協同探究力

A4 ステークホルダーが Win-Win の関係となるよう柔軟かつ創造的な提案を行う力

→「国際課題について、各種関係者が納得できるような柔軟で創造的な提案を（完璧でなくとも、自分なりに）考え、説明できる。」◆A4 創造的提案力

A5 高いレベルのコミュニケーション・ツールとしての英語力

→「社会の問題について、英語で主張や意見交換ができる。」◆A5 英語運用能力

補足 | 評価の方法

B. その他本校が期待する効果

B1 グローバルな問題に対する関心の高まり

→「高校入学時と比べて、グローバルな問題に対する関心が高まりましたか？」

◆B1 国際課題関心

B2 国際課題に取り組む意欲の形成

→「将来グローバルな問題について、自分の知識を活かして必要ならリーダー的役割を果たしたいと思いますか？」 ◆B2 国際課題意欲

B3 多角的検討の必要性に対する認識

→「高校入学時と比べて、現実の問題の解決策を考えるには、多様な立場からの検討が必要だという認識は高まりましたか？」 ◆B3 多角検討認識

B4 事実や意見を調べる力

→「ある問題について、事実や意見を調べる力は向上したと思いますか？」 ◆B4 リサーチ能力

B5 わかったことを伝える力

→「調べたことを整理しわかったことを筋道立てて述べる力は向上したと思いますか？」

◆B5 レポート能力

B6 グローバルな課題を具体的に理解

→「グローバルな問題をより現実的に理解できるようになりましたか？」 ◆B6 リアルな理解

B7 研修経験の波及効果

→「この研修で得た知識を、課題研究の時間に他の人のために役立てましたか？」

◆B7 研修経験波及

B8 グローバルな大学への進学希望

→「国際化に重点を置く大学へ進学したいと思っていますか？」 ◆B8 国際大学希望

補足 | 評価の方法

B9 大学の専攻分野選択への影響

→「課題研究や SGH 関連の講演・研修が大学の専攻分野の選択に影響を与えたと思いますか？」◆B9 専攻分野影響

B10 知的好奇心の高まり

→学校教育自己診断アンケート「課題研究の授業は知的好奇心を高めている。」◆B10 知的好奇心向上

B11 将来の進路・生き方について考える機会の提供

→「将来の進路について考えた。」◆B11 進路検討機会

C.SGH 統一のアウトカム指標

C1 自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数

C.1.1)→「高校在学中に自主的に社会貢献活動に取り組んだことがありますか？」

◆C1.1 社会貢献経験

C.1.2)→「高校在学中に自主的に自分の成長のためネットや本などを使って情報集めをしたことがありますか？」◆C1.2 自己研鑽経験

C.1.3) 上記のどちらかまたは両方の経験がある生徒◆C1 貢献研鑽経験

C2 自主的に留学又は海外研修に行く生徒数

C.2.1)→「高校在学中に留学または海外研修（「海外研修旅行」を除く）に行きましたか？」

◆C2 留学研修経験

補足 | 評価の方法

C3 将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合

C.3.1)→「将来留学したいと思っていますか？」 ◆C3.1 留学希望

C.3.2)→「将来国際的に活躍したいと思っていますか？」 ◆C3.2 国際活躍希望

C.3.3)上記のどちらかまたは両方を希望する生徒 ◆C3 留学活躍希望

C4 公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数

C.4.1)→「公的機関から表彰されましたか？」 ◆C4.1 公的表彰経験

C.4.2)→「グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会において入賞しましたか？」 ◆C4.2 大会入賞経験

C.4.3)上記のどちらかまたは両方の実績がある生徒 ◆C4 表彰入賞経験

D.参加満足度

D1 全体としての印象

→「参加してよかった。」 ◆D1 参加満足評価

D2 成長が実感できたか。

→「自分は成長したと思いますか。」 ◆D2 成長実感



お問い合わせは…

sgh@osaka-senri-hs.net

〒565-0861

大阪府吹田市高野台2-17-1

TEL : 06-6871-0050

FAX : 06-6871-2587

担当 : 大西 (首席) ・山下 (教頭)